同志社クローズ・アップ

同志社創立150周年記念講演会（函館／札幌）

法人部

法人事務部　創立150周年記念事業事務室

2025年6月14日（土）

9時10分　同志社創立150周年記念礼拝

函館千歳教会において同志社創立150周年記念礼拝が行われた。一同で賛美歌を斉唱後、柴田もゆる牧師から「種をまく」と題したメッセージが述べられた。種をまき、作物が育つまで時間がかかるのと同じように教育についても、しっかりと時間をかけて丁寧に人を育てる点では共通しているといったお話があり、八田英二総長・理事長による挨拶で締めくくられた。礼拝後、当教会に寄贈された校祖新島の遺髪についての説明と教会再建の歴史についてのお話があり、当時再建に奔走した片山幽吉牧師の決心に思いをはせた。

函館　礼拝

11時　「同志社創立者新島襄海外渡航の地」碑前祭

函館市大町の「新島襄海外渡航之地」碑の前で式典が執り行われた。当日は天候にも恵まれ、校友、函館市関係者など約40名が参列した。式典では、柳井望法人事務部長による司会のもと、一同で賛美歌を斉唱後、八田英二総長・理事長による式辞、次に髙井暁函館市観光部次長によるご挨拶があり、続いて一同でDoshisha College Songを斉唱の後、献花が行われた。160年前にこの地から密出国を計った校祖新島の激動の人生に思いを馳せ、同志社の今を託されている我々ひとり一人が、新島の熱い志である2000年の大計に向けて、一同が決意を新たにすることとなった。

函館　遺髪

14時　同志社創立150周年記念講演会 in 函館

講演①

「同志社の志を継ぐ～良心教育と社会へのメッセージ～」と題し、八田英二総長・理事長による講演が行われた。同志社創立150周年を迎えるにあたり、新島襄が掲げた志とは何だったのか。そして、同志社が、これから社会の中で果たすべき役割とは何か、その原点と未来についての話があった。150周年というのは単なる通過点ではなく、過去からの積み重ねを振り返り、現在の課題を明確化し、そして未来へのビジョンを描く好機と捉えたい。節目の年を迎える今、創立者新島襄が、この学校からいかなる日本の未来を描こうとしたのかに思いを馳せ、教職員が連携をより一層深めて参りたいと述べられた。これまでの伝統と信頼の積み重ねが、同志社という学び舎の本質であり、新島襄が理想とした教育が今日まで脈々と生きていることが感じられる時間となった。

講演②

続いて、ノンフィクション作家・評論家の保坂正康氏による「近現代史における同志社人脈を見つめて」と題した講演が行われた。1875年に同志社英学校としてスタートした同志社は、開校して4年後に第一期卒業生15人を送り出して以来、実に35万人を超える同志社人を輩出してきた。その中でも、5つの特長にジャンル分けしながら、特筆すべき人物を選び、各人物の点描を辿りつつ、創立者新島襄に接した人物がその生き方にどのような影響を与えられ、メッセージを残していったのか、今に生きる我々は、新島の考え方を知るためにも、その思いを知り伝えることで、同志社の歴史を紡いでいく必要があることを再認識する機会となった。

函館　保阪氏

2025年6月15日（日）

13時20分　同志社創立150周年記念講演会 in 札幌

同志社創立150周年と同志社校友会北海道支部創設100周年を記念して講演会が、ホテルポールスター札幌で執り行われた。

プログラム冒頭、北海道大学混声合唱団と同志社グリークラブによるジョイントコンサートで、会の雰囲気は一気に盛り上がりを見せた。八田英二総長・理事長による挨拶

札幌　講演

の後、２つの講演が執り行われた。

１つ目は、北海道大学理事・副学長で、最高サスティナビリティ責任者の横田篤氏による「北海道大学のサスティナビリティ追求の歴史と現在地」と題した講演で、２０２６年に創基１５０周年を迎える北海道大学のこれまでの歩みについての紹介があった。「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」を基本理念とする北海道大学は、２０１４～２０２６年まで近未来戦略１５０「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」をかかげており、２０２２～２０２７年の第４期中期目標・中期計画を牽引するために２０２１年にサスティナビリティ推進機構を立ち上げている。現在は、持続可能なWell-being社会の実現を目指して、HU VISION 2030を策定し、そこでは、２０３０年をターゲットイヤーとし、科学技術における教育と研究の卓越性（＝Excellence）と同時に社会課題の解決やＳＤＧｓ達成の貢献（＝Extension）に注力していることが説明された。

２つ目は、同志社大学同志社社史資料センター社史資料調査員の小枝弘和氏による「William Smith Clark と新島襄 - 両者が紡いだ北海道と京都の縁」と題した講演が行われた。はじめに、W. Sクラークと新島襄とのキリスト教を介した関係性について、札幌バンド、札幌独立基督教会、熊本バンドといったキーワードを交え、二人の関係性が同志社関係者へも広がり、互恵関係を築いていく様子が詳しく示された。なかでも、同志社大学設立運動に札幌独立基督教会や北海道毎日新聞が協力的な対応であったことは、札幌と京都の縁をあらためて認識すべき印象深いエピソードであった。

札幌　ジョイントコンサート

会は、同志社校友会北海道支部長の草野賀文氏による閉会の挨拶により、盛会のうちに幕を閉じた。